

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年6月1日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)
法人名	医療法人社団 久誠会
事業所名	医療法人社団 久誠会 鏡島弘法前ケアセンター
所在地 (電話番号)	〒501-0112 岐阜市鏡島1293番地2 (電話) 058-251-9062
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年5月11日

【情報提供票より】(19年6月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	18 人
	常勤 10 人, 非常勤 0.6人, 常勤換算 5.8 人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	32,000 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(家賃の2ヶ月分 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4) 利用者の概要(6月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	10 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85 歳	最低 62 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三浦医院、 渡辺歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム鏡島弘法前ケアセンターは、南西部の市街地に位置し、その名前のとおり、鏡島弘法様の入り口で商店街のなかにあり、おしゃれな近代的な建物である。当ホームは、開設当初から地域の人々との交流が盛んで、自治会へ加入し、自治会の行事にすべて参加している。また、ホームで行なう夏祭り等のイベントには、利用者やご家族そして地域の大勢の人たちが集い、一緒に楽しんでおり、自然な形で地域との交流がされている。ホーム内部は、明るく清潔に保持され、調度品等、家庭的な落ち着いた雰囲気である。また、職員の対応が優しく、アットホームな支援をしている。まさしく地域密着型サービスを実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の改善課題である市町村との関わりは積極的な取り組みに向かっている。外部の苦情相談窓口の追加もなされており、さらに緊急時の応急手当等の定期的な実践学習もなされて定着している。全体としてよいサービス提供へ進んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に職員の意見も聞いての取組みがなされていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議が、利用者及びご家族の代表、地元民生委員、自治会、市役所担当者等の参加のもと、2ヶ月に1回のペースで定期的に開催されている。会議は、誰もが意見を出しやすい雰囲気、出された意見や助言は、その後の施設運営やサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議の場で意見を聴取するほか、ご家族等の訪問時に、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等、具体的に報告する中で、介護サービスのことについても話し合い、その中で不満や苦情等を聞き出している。今までは、苦情や不満がないが、更に利用者やご家族が何でも言える環境作りを検討する方向を打ち出している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設が商店街の中の鏡島弘法様前に建っており、いつも地域住民が行き交うところであり、施設も立ち寄りやすい雰囲気作りをして、自然な形で交流がある。また、自治会に加入して、その活動に全て参加するなど地域に溶け込み、施設が地域の一員となっている。さらに「鏡島弘法前通信」を、自治会に回覧しており、認知症の理解や施設のPRをしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がその人らしい暮らしを継続すること及び、利用者の尊厳を重視した理念である。また、地域とのふれあいの大切さも盛り込んである。		5つの理念を掲げて、サービスを実践している。しかし、施設が利用者やご家族及び地域の住民に、もう少し分かりやすい理念、地域密着型サービスに沿った理念にすることを検討しているので、期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、理念を共有するために、申し送り会議のときに理念を職員全員で唱和をしている。理念に沿って利用者本位、その人らしい暮らし方や尊厳をサービスのなかで実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設が、鏡島弘法前の商店街の真中にあり、地域の住民が常に行きかう場所に建っており、近隣の人が立ち寄り、利用者と自然に交流が出来ている。また、自治会に加入し、地元の活動に参加するなど、施設が地域の一員となっている。		施設のたよりを、自治会で回覧していて、その中に認知症についての記事を載せ、地域住民に理解を求めている。今後も継続して欲しい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価も数回受けており、その都度改善し、サービスの質の向上が図られている。今回は、地域密着型サービスになって初めての評価ということで、管理者を中心に職員全員で自己評価を取り組み、地域密着型サービスの理解を話し合うなど、職員全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行なっている。参加者は、利用者の代表、民生委員、自治会、市役所職員、ご家族等で、話しやすい雰囲気の中で行なわれている。施設のサービスの内容を、より理解してもらうための努力をしている。		自己評価や外部評価の結果などを、運営推進会議での議題として報告し、常にサービスの質の向上に向けて、取り組みをしている。更に、報告についての委員の意見等を活かす工夫を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の場だけでなく、事務上の手続きや市の助言をもらう機会をつくり、サービスの質の向上に活かすよう、創意工夫している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	弘法前通信をご家族に送付して、利用者の近況や、健康状態、金銭の管理等について定期的に報告している。また、面会時にも本人の暮らしぶりやサービスの内容等を具体的に話し、ご家族等からの意見や要望の出しやすい環境を作っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場にご家族の代表に参加してもらい、施設に対する意見や要望及び不満、苦情を出してもらい、今後の運営に活かすようにしている。また、意見箱の設置や苦情相談担当者を置く等、利用者から意見の出しやすい体制をとっている。		利用者やご家族が、安心して不満や苦情を言える環境作りの1つとして、介護相談員の導入も検討されることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、利用者が馴染みの職員でないと混乱等をきたすことをよく理解しており、出来るだけ職員の移動をしないように努力している。また、職員が働きやすい環境づくりにも工夫しており、他の施設より退職した職員が少ない状況である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、事務所等に掲示して、職員の希望に応じて受講を勧めている。また、研修内容によっては、施設側から指示して受講させている。研修後は報告会を開き、研修内容を全職員で共有する取り組みをしている。		今後は、研修計画を更に充実したものにし、計画的に研修会を受講し、サービスの質の向上に活かして欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者との交流は少ない。研修会に参加した職員が知り合いとなり、輪を広げて情報の収集に努めている。		少しずつではあるが、グループホーム管理者同士の交流があらこちらで深まっている。ネットワーク作りを進め、情報収集からさらに質の向上につながる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心し、納得した上でサービスを利用するために、利用開始時に、施設側から説明に行っている。また希望者には事前に施設の見学や体験する機会を設けている。ご家族等にも相談する機会を多く作り、出来るだけ早く馴染めるよう段階的な支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が、利用者と一緒に暮らすことの楽しさを知っており、日々の生活場面で 学び、支えあう関係を築くことを職員同士で話し合い、実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が軽く、自分で医師や職員に伝達できる利用者には、希望するサービスを提供している。また、思いや意向を伝えられない利用者については、ご家族等から生活歴を聞いたり、本人の日常の行動から何を望んでいるかを等把握し、サービスを提供している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	東京センター方式でのアセスメントを利用し、職員全員で理解して介護計画を立てている。また、ケアマネージャだけに任すのではなく、職員全員の意見交換やモニタリング、カンファレンスをしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度は見直しをしている。また、利用者の実情の変化に応じて、随時見直しを行なっている。見直しは、職員と必要な関係者の話し合いで行なっており、ご家族に対し、作成後報告説明をしている。	○	本人の状況の変化に、ご家族と連絡を取る時間や期間がとれないときもあると思うが、見直し作成前に、出来るだけご家族と話し合う機会を設ける工夫をして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	鏡島弘法様が近いのでいつも散歩に出掛けたり、IFのデイサービスでリハビリ体操やリハビリ訓練、刺繍作業やボランティアの訪問時には一緒に参加してもらうなど、本人やご家族の状況、要望に対応して支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、三浦医院(当施設の代表者)にて定期受診と年1回の定期健診を受けている。施設の直ぐ近くに三浦医院があり、急な変化や状況に対する相談が、常に対応できており、利用者やご家族に安心を与えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期も当施設でと望まれるご家族に対して、医師から終末期のリスクやご家族の役割など分かりやすく説明をして、関係者の意向を統一し、ご家族等の納得の上で終末期の支援をしている。職員は終末期を迎えるための勉強会や話し合いを常日ごろからしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人で接遇委員会が設置され、職員全員が言葉や接し方の研修を受けている。これからの高齢者介護のキーワードは「尊厳」であり、ホームでは、理念の中に尊厳、尊敬を謳っており、日々の支援の中で利用者によさしく、礼儀正しく接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大体決めてあるが、職員は日々の生活の中で、一人ひとりの思いや希望の把握に努め、本人の希望を第一に考え、その人に合った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広い食堂は、利用者が自由な移動や食卓に車椅子でも余裕を持って座ることができ、ゆっくり、落ち着いた気分で食事がとれている。また、職員がそれぞれのテーブルで利用者の間に入り、一緒に食事を楽しんでいる。食事の用意や後片付けは、出来る人が一緒に行い自然な形で利用者の力を活かしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴が出来る。また、利用者の希望に合わせて随時、入浴が出来る体制が出来ている。加えて1Fのデイサービスが休館日には、大きい「梅の湯」に入ることが出来、利用者が楽しみにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者が楽しんで行なう役割を知っており、日々の生活でお手伝い等、役割を果たすことの喜びを味わってもらうよう支援をしている。鏡島弘法様の日(毎月21日)には、散歩にでかけ、自分の好きなものを買ってきたり、誕生日や季節のイベント等を開催するなど、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	鏡島弘法が近くにあり、よく出掛けている。また、月2回三浦医院での受診や商店街での喫茶店や外食など、施設に閉じこもらない支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない支援を、職員全員が理解しており、日中は殆ど鍵をかけていない。当該施設は2階にあり、1階の出入りに、デイサービスの事務所があるので、利用者が出て行くのをチェックできる体制がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を、消防署の指導で行なっている。特に避難訓練に力を入れており、避難のシステムは出来ている。しかし、ホーム単独の訓練は実施されていない。	○	地域住民との交流が出来ているので、今までは、系列の老健と一緒に訓練をしていたが、今後は、ホームと地域住民と一緒に初期消火訓練や避難訓練を行うことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の好みの物、食べ慣れているものを美味しく食べてもらえるよう心がけている。また、週間献立表に毎食の摂取量、1日の水分摂取量、排泄の記録をしており、体調不良にならないよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間(玄関、廊下、居間、食堂、台所、浴室及びトイレ等は清潔に保たれている。施設内は、天井が高く、窓も大きいので明るく、全体的に落ち着いた空間になっている。居間や各個人の部屋は余裕をもった広さが確保され、また、一人や仲間と静かに過ごせる部屋が設けてあるなど居心地がよく、ゆったりしている。しかも家庭的な雰囲気が漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の部屋は、家族が泊まれる広さがあり、本人が使っていたなじみのダンスや机等が持ち込まれている。		